

## 東諸県郡小学校体育連盟ポスターセッション

### 東諸県郡 小学校体育連盟

#### 東諸県郡



綾の照葉大吊橋

綾町(1校)



法ヶ嶽薬師寺本堂

国富町(4校)

#### 東諸県郡の子どもの実態

- 授業以外で運動をする機会が少ない。
  - ・ 近所で遊ぶ機会が少ない(友達の家が遠い)
  - ・ 遊びはゲーム機やカードを使ったものが多い
  - ・ 少年団に入っている児童との差(球技が多い)
  - ・ 運動の体験・経験が少ない(サッカーはできるけど、野球ができない)
  - ・ スクールバスでの登下校

#### 放課後の運動経験の差

#### 子ども・教師の願い

- 運動の楽しさを味わわせたい。
- 進んで運動をするようにさせたい。



- いろいろな運動の経験をすること。
- 運動が得意な児童も苦手な児童も楽しめる遊びやルールを作ること。

東諸県郡には、綾町に綾小学校が1校、国富町に本庄小学校・木脇小学校・森永小学校・八代小学校の4校、合計5つの小学校があります。児童数は約1400名です。

研究を進めていく上で、まず東諸県郡の子どもの実態を調べました。体育の授業以外で体を動かす機会が少なくなっています。理由としては、友達の家が近所になく遊ぶ機会が少ないことや遊びが体を動かさないゲームやカード遊びが多くなっていることが挙げられます。また学校外で体を動かしている子どもたちのほとんどは少年団等に入っています。しかし、そういう子どもたちも自分の習っている競技はできても、それ以外の競技はうまくできないという姿も見られます。また、スクールバスを利用する児童の体力低下傾向も見られます。放課後の過ごし方により、運動の経験の差が広がっています。

東諸県郡では、特に少年団に入っていない子どもたちにとって、学校での体育の授業は子どもたちの体力を向上させることや生涯運動に親しませるためにとっても重要であることがわかります。

そのため、体育の授業で、運動の楽しさを味わい、進んで運動をする子どもの育成をするためには、小学生の頃からいろいろな運動の経験や体験をさせること、運動が得意な子・苦手な子が楽しめる環境をつくることが大切であると考えました。

# 研究主題

## 運動の楽しさを味わい、進んで運動に親しもうとする児童の育成

～「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して～

そこで、研究主題を『運動の楽しさを味わい、進んで運動に親しもうとする児童の育成～「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して～』としました。体を動かす機会が学校での体育の授業だけでなく、昼休みや放課後に生まれることを期待し、研究に取り組んできました。

### 研究1年目 子どもの実態の把握

	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
1. 体育の授業は好きですか。...	86%	0%	14%	0%
2. ボールゲームで、ボールを持っていないときにどう動けばいいかわかりますか。...	27%	44%	14%	15%
3. ボールゲームで、自分がボールを持っているときに、どこにパスを出すかうまくいえるまで考えてはきいていますか。...	76%	18%	3%	6%
4. ボールをキャッチするのは得意ですか。...	16%	54%	19%	11%
5. ボールをキックするのは得意ですか。...	33%	59%	0%	8%
6. すばいれ動きで相手をかかわるのは得意ですか。...	58%	28%	11%	3%
7. 1回の体育の学習の中で、「上手くてきた！」と思える瞬間が1回あります。...	66%	14%	14%	6%
8. ゲームで勝つために作戦を考えることは好きですか。...	50%	17%	0%	33%
9. 友達に、上手になるためのコツを教えることができますか。...	22%	53%	8%	17%
10. 友達が上手になってきたとき、ほめてあげたい言葉をかけたりすることができていますか。...	66%	19%	0%	15%

研究の1年目はまず、児童の実態を把握するために、アンケートを行いました。体育の授業が好きという児童が多いことがわかります。しかし、ボールを持っていないときの動きやボールの操作に自信がなく、チームで作戦や相談をすることなどが好きではないという傾向が見られます。技能に自信のない児童、作戦の話合いに参加できていない児童がおり、チームで取り組む競技について、今後の課題が見えてきました。

### 研究1年目 研究のゴールイメージ

	目指す児童の姿	そのための手立て
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のできていないことが分かる。</li> <li>自分の改善すべき点がある。</li> <li>上手にやるためのコツが分かる。</li> <li>上手くなるための練習の方法が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの工夫</li> <li>その運動を楽しむためにはどんなスキルが必要なのかを教える。(掲示、動画)</li> <li>作戦ボードや作戦カードの活用</li> <li>それぞれの運動の特性を教師自身がしっかりと理解しておく。(教材研究)</li> <li>児童同士の教え合い</li> <li>コツや動きを文章化させる。</li> </ul>
できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝てる。</li> <li>上手くてできる。(成功)</li> <li>1時間の中で、「上手くてきた！」と思える瞬間が1回以上ある。</li> <li>これまでできていなかったことができる。</li> <li>理解した(教えてもらった)コツを実践できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームでの声掛け</li> <li>場を工夫したり段階的に取り組ませたりすることで、それぞれの段階での成功体験を味わわせる。</li> <li>話し合いや練習時間の確保</li> <li>自己やグループでの毎時間の振り返りを大切にする。</li> <li>各学年で確実に習得させる技能(スキル)を設定する。(例:ボールのキャッチー2年、逆上がり3年 など)</li> </ul>
かかわる	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝つための方法が分かる。</li> <li>どうしようふにできればよいのかを具体的に説明することができる。(動きを説明できる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームでの声掛け</li> <li>場を工夫したり段階的に取り組ませたりすることで、それぞれの段階での成功体験を味わわせる。</li> <li>話し合いや練習時間の確保</li> <li>自己やグループでの毎時間の振り返りを大切にする。</li> <li>各学年で確実に習得させる技能(スキル)を設定する。(例:ボールのキャッチー2年、逆上がり3年 など)</li> </ul>

そのため、研究を進めるにあたり、目指す児童の姿に近づけるにはどういう手立てをとればいいのかを『わかる』『できる』『かかわる』に分けて抽出しました。

### 研究1年目 研究のゴールイメージ

	目指す児童の姿	そのための手立て
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のできていないことが分かる。</li> <li>自分の改善すべき点がある。</li> <li>上手にやるためのコツが分かる。</li> <li>上手くなるための練習の方法が分かる。</li> <li>勝つための方法が分かる。</li> <li>どうしようふにできればよいのかを具体的に説明することができる。(動きを説明できる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの工夫</li> <li>その運動を楽しむためにはどんなスキルが必要なのかを教える。(掲示、動画)</li> <li>作戦ボードや作戦カードの活用</li> <li>それぞれの運動の特性を教師自身がしっかりと理解しておく。(教材研究)</li> <li>児童同士の教え合い</li> <li>コツや動きを文章化させる。</li> </ul>

『わかる』では、ゲームの勝ち方や自分がどう動くときよいのかということに対して、チームで共通して理解することや視覚的にわかりやすいものが手立てになると考え、ワークシートや作戦ボードなどを取り入れることにしました。

### 研究1年目 研究のゴールイメージ

	目指す児童の姿	そのための手立て
できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝てる。</li> <li>上手くてできる。(成功)</li> <li>1時間の中で、「上手くてきた！」と思える瞬間が1回以上ある。</li> <li>これまでできていなかったことができる。</li> <li>理解した(教えてもらった)コツを実践できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームでの声掛け</li> <li>場を工夫したり段階的に取り組ませたりすることで、それぞれの段階での成功体験を味わわせる。</li> <li>話し合いや練習時間の確保</li> <li>自己やグループでの毎時間の振り返りを大切にする。</li> <li>各学年で確実に習得させる技能(スキル)を設定する。(例:ボールのキャッチー2年、逆上がり3年 など)</li> </ul>

『できる』では、話し合いや練習時間の確保をし、技能を習得させることで、できることの喜びを感じ、運動の楽しさを実感できると考えました。

## 研究1年目 研究のゴールイメージ

かわがる	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム内での役割を分担する。それぞれに合った役割を割り当てる。</li> <li>がんばっている友達を見つめる。</li> <li>成功時や得点時の声掛け</li> <li>話し合いや助け合い、仲間への指示が充実する。</li> <li>友達にコツを教える。</li> <li>応援する。</li> <li>作戦会議が活発に行われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人やチームの良いところを取り上げたり見つけさせたりする。</li> <li>スポーツで使う「相手を褒める言葉」を提示する。</li> <li>チームやグループで、得点時や成功時の動きを決める。(必ずハイタッチするなど)</li> <li>チーム練習やペアでの練習を意図的に取り入れる。</li> <li>作戦ボードの活用</li> <li>ワークシートの工夫</li> </ul>
	➔	

『かわがる』では、チームでの声かけや友達どうしでの教え合いなどをすることで、自分自身やチーム全員で気持ちや意欲を高め、よりチームの絆が深まると考えました。

## 研究授業 『タグラグビー』

6 単元の評価基準	
<b>運動への関心・意欲・態度</b> ① 安全に気をつけて、準備や片づけを行うとする。 ② ボールやラグビーを守り、勝敗にこだわらずタグラグビーを楽しむとする。 ③ チームの仲間と教え合い、励まし合いながら練習やゲームしようとする。	<b>運動についての思考・判断</b> ① タグラグビーのゲームの仕方やルールを理解し、自分の速のチームに合った作戦や練習を考えている。
<b>運動の技能</b> ① ボールを持って、相手をかわして走り抜けたり、足方へパスをしたり、相手のタグを取るができる。 ② 作戦や自分のめあてに応じた動きができる。	
7 単元の計画及び評価計画	
1 ① オリエンテーション ② ショー ③ ショー ④ 試みのゲーム	2 ① ① ② ② ③ ③ ④ ④
3 ① ① ② ② ③ ③ ④ ④	4 (本時) ① ① ② ② ③ ③ ④ ④
5 ① ① ② ② ③ ③ ④ ④	6 ① ① ② ② ③ ③ ④ ④

研究授業では5年生で『タグラグビー』を行いました。タグラグビーは子どもたちがあまり経験したことの少ないスポーツであったこと、また私たちがも授業の経験が少なかったので、専門であるO先生に授業をしていただきました。全6時間の計画の中で、単元の前半に基本的な技能を習得させ、単元の後半ではチームの作戦を生かすことをねらいとして計画しました。

## 研究授業 『タグラグビー』

### タグラグビーのルール

- ① タグが両膝についている人がプレーできる。
- ② ボールを持っている人は、自由に走ることができる。
- ③ タグを取られたら、3歩・3秒以内にパスをする。
- ④ パスは、横か後ろに投げる。
- ⑤ ボールを持って、ゴールラインをこえる(トライ)と1点。
- ⑥ 試合開始、再開は全てフリーパスで始める。(もらう人は、2m以内)
- ⑦ 守備は、ボールを持っている人のタグを取って守る。
- ⑧ タグを取ったら、相手に手渡しで返す。
- ⑨ 味方がタグを取ったら、守備はその場所まで下がる。
- ⑩ 試合の始めと終わりは、あく手をしながらあいさつする。

タグラグビーのルールです。タックルがタグを取るに変わるなど、若干ルールは違うものの、ラグビーに近いルールです。

## 研究授業 『タグラグビー』

学習過程	学習活動	学習活動への支援・評価	評価・指導
10分	1 活動内を確認する。 ① 自分たちのチームのめあてを話し合う。	本時の活動の流れを確認させる。 ・目標チーム。 ・個人やチームのめあて。 ・練習内容等。	準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動
10分	2 チームごとに準備運動 3 チームごとに練習を行う。	ストレッチを含めて、各ポジションの動作や練習をはずすように行う。 4 チームごとに練習を行う。	準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動
10分	4 ゲームの初めを行う。 ① 前後する分、フリーパス1分。 ② コートアウト1分。 ③ フリーパス1分。 ④ フリーパス1分。	ゲームのルールに慣れるようにさせる。 ・ルールを熟読させる。あいさつと手渡しをさせる。 ・フリーパスがどのくらい行えるようにさせる。 ・安全にゲームが行えるようにさせる。	準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動
10分	5 作戦ゲーム、練習 ① ゲームの初めを行う。 ② 前後する分、フリーパス1分。 ③ フリーパス1分。 ④ フリーパス1分。	実践している作戦があれば実践し、うまく機能していないものの作戦については原因を突きまわし練習を行う。 6 タグラグビーのゲームの仕方やルールを理解し、自分の速のチームに合った作戦や練習を考え、ゲーム中の実践を繰り返す。改善が認められたら練習する。	準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動
10分	6 勝利を挙げるを行う。 7 学習のまとめをする。 8 次の学習を促す。	協力して仕上げができるように声をかける。 有効な作戦があったかを発表、紹介させる。 次時の対戦を確認し、次時に向けての意欲の喚起を図る。	準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動 準備運動

学習過程です。授業のはじめに個人やチームのめあてを立て、チームで準備運動・練習を行います。展開では前半にゲーム①を前半後半行い、そのゲームを基に作戦を考え、練習を行い、後半のゲーム②に生かしていくという流れです。まとめでは有効な作戦の紹介を行いました。

## 研究授業 『タグラグビー』

### 学習カード [タグラグビー]

名前 ( )

単元の前	個人の前	準備	試合	振り返
1				
2				
3				
4				
5				
6				

学習カード [タグラグビー-2]

氏名 ( )

チーム名

月 日 ( ) 時間

対戦相手	得点	作戦の得意	今日のMEMO ( )さん
-	-	A B C	がんばっていたこと
-	-	A B C	
-	-	A B C	

気づいたこと

学習カードです。技能の習得や目標を達成させるために個人の前めあてをもたせ、またチームの試合結果を記録することで試合に勝つための話し合いや振り返りの資料となるように作成しました。

## 授業の様子



必要に応じてアドバイス

## 授業の様子



## アンケートから

アンケート結果（平成27年上半段10月・下半段12月実施）

質問	答	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
1. 体育の授業は好きですか。...		98%	2%	0%	0%
2. ボールゲームで、ボールを持っているときにどう動けばいいかわかりませんか。...		22%	43%	25%	10%
3. ボールゲームで、自分がボールを持っているときに、どこにパスを出そうかよく考えようか考えてパスを出していますか。...		4%	25%	59%	12%
4. ボールを投げるのは得意ですか。...		1%	23%	53%	23%
5. ボールをキャッチするのは得意ですか。...		3%	23%	53%	21%
6. ずばり動きで相手をかわすのは得意ですか。...		2%	23%	53%	22%
7. 1回の練習の学習の中で、「上手くできた」と思える練習が1回あります。...		46%	23%	23%	6%
8. チームで勝つために作戦を考えることは好きですか。...		3%	23%	53%	21%
9. 友達に、上手になるためのコツを教えることができますか。...		23%	23%	23%	31%
10. 友達が上手にできたとき、ほめられたい気持ちがあります。...		46%	23%	23%	6%

授業の様子です。作戦タイム（話し合い）では自分たちの動きを確認しながら作戦を立てました。作戦ボードやマグネットは立ち位置やボールの渡し方の確認など、視覚的にとても有効でした。担任はグループの話し合いの様子を見て回り、必要に応じてアドバイスを行いました。

自分たちが立てた作戦を基に、練習やゲームを行います。作戦がうまくいっていないチームには担任が適宜アドバイスを行い、支援を行いました。

児童のアンケート結果です。タグラグビーの授業前と後を比べると体育の授業が好きになった児童が増えているなど、各項目で変化が見られました。8番目の『チームで勝つために作戦を考えることは好きですか』という質問に注目すると、いいえが33%だったのが3%となり、どちらかと言えばはい、どちらかと言えばいいえが増えました。児童同士でかかわることの成果が見られたと考えます。

## 成果と課題

- ゲームと話し合いを重ねることで、徐々に作戦を生かした良い動きが見られるようになった。
- タグラグビーを初めて行う児童が多く、競技の特性などを十分に理解していない児童も多かったため、作戦を自分で考えるのは難しかった。
- ゲーム間の話し合いの時間をもっと確保できたなら、さらに話し合いが充実していたと思う。

成果として、ゲームと話し合いを重ねることで、徐々に作戦を生かした良い動きが見られるようになりました。課題としては、タグラグビーを初めて行う児童が多かったため、作戦を考えたり、話し合いの時間を確保したりする部分で工夫が必要でした。

## 研究2年目（1年目の成果と課題から）

- 1年目の成果と課題から
  - ・ 『かかわり』を主として
  - ・ 低学年も楽しめる簡易なゲーム
  - ・ 話し合い活動の充実
  - ・ かかわるための手立て
    - 簡易化したミニサッカー（ボール蹴りゲーム）

研究の2年目です。1年目の成果と課題を生かすこと、また、学年の枠を広げて低学年でも内容を工夫することで、ねらいが達成できるのではないかと考えて、研究を進めてきました。研究授業は昼休みに2年生がよく遊ぶサッカーからボール蹴りゲームにしました。

## 手立ての一覧

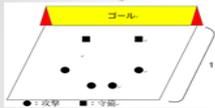
	何をすべきか	そのための具体的な策
「かかわる」 ために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協作りや準備運動でのコミュニケーション</li> <li>・基礎的・基本的な技能の習得における教え合い</li> <li>・グループ結成時のチーム名やチャッツ決定</li> <li>・技ができた、得点した時の仲間での声のかけ合い</li> <li>・運動のポイントやコツの教え合い</li> <li>・運動時の身体的・心理的接触</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアストレッチなど触れる活動</li> <li>・チームにおけるリーダーの存在</li> <li>・Oカードに写真&amp;ポーズ</li> <li>・よい動きをした児童の動きを参照</li> </ul>
「楽しさを 味わわせる」 ために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低限の技能の習得</li> <li>・楽しくなる雰囲気作り</li> <li>・基準の揃ったルール</li> <li>・運動できる環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元前半での技能取得のゲーム</li> <li>・失敗を責めない体育授業</li> <li>・単元前半でのルールの明確化</li> <li>・事前準備</li> </ul>
「親しむ」 ために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後も運動に取り組む仕掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への啓発</li> <li>・自己の課題としてとらえる</li> </ul>

## 単元・授業の流れ

7 単元の計画 (時間切れ) 全日時間							
分、時	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
0							
15							
30							
45							
	準備運動	【学習内容の確認】 基本的な技能を身に付け、みんなが楽しめるゲームを考えよう。	【準備運動】 ・パス ・シュート	【準備運動】 ・パス ・シュート	【学習内容の確認】 チームで攻め方を考えて、ゲームを楽しもう。	【準備運動・チーム練習】 【ゲーム①】 ・ボールけりゲーム 【作戦タイム】 ・攻め方 【ゲーム②】 ・ボールけりゲーム	ボールけりゲーム
		【学習のまとめ】 ・反省			【準備運動・チーム練習】 【ゲーム①】 ・ボールけりゲーム 【作戦タイム】 ・攻め方 【ゲーム②】 ・ボールけりゲーム	【学習のまとめ】 ・反省	

単元の流れです。単元前半は、はじめに学習の内容、ルールを全体で確認します。その後チームごとに準備運動を行いました。なかでは、技能の習得のために、パスやシュートの練習を行います。その後、作戦タイムでチームの作戦を決め、ゲームを行いました。おわりでは、チームで反省をし、全体で集まり、次回のルール等について確認を行いました。単元後半は、チームで準備運動・練習まで行い、なかではゲームをして、作戦タイムをとった後、再度ゲームを行いました。

## ゲームのルール



- 1チーム4～5名 (全6チーム)
- 3チームで1コートを使用 (対戦のないチームは審判)

### 【守備】

- 2名 (交代)
- 相手のボールを取ってはいけぬ (パスカットのみ)
- 30秒過ぎるか、ボールをコートの外に出す。
- 手は使えぬ。

### 【攻撃】

- 全員
- 攻撃タイム30秒
- カラーコーンの間にシュート (パスの回数=得点)
- 得点が決まったら、みんなで喜びのポーズ
- ドリブル禁止

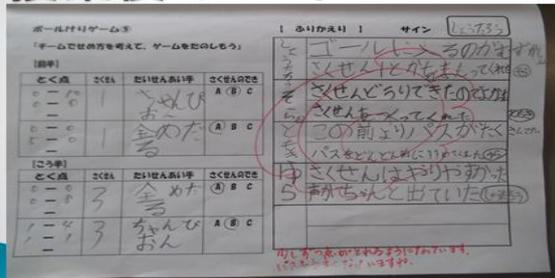
ゲームのルールです。全員で攻撃をし、守備は2人です。攻撃時間は30秒、シュートをするまでにパスをした回数が得点になります。

## 授業の様子



授業の様子です。白帽子が攻撃です。ボールを持っているときは取られることがないので、落ち着いて誰にパスするかを考えることができます。ボールを持っていない児童はパスがもらえる位置を見つめます。得点が決まったら、チーム全員で喜びのポーズをします。

## 授業後のノート



学習ノートです。左側には試合の結果やどの作戦を使ったか、作戦のできを書きました。右側には授業後の感想とチームの友達の良かったところを書くようにしました。

## 事後アンケート

○ アンケート結果（人数）（上段が授業前、下段が授業後）

質問	はい	どちらかと書えばいい	どちらかと書えばいい	いいえ
1. 体育の授業は好きですか。	24	2	0	1
2. ボールを使った運動は好きですか。	22	4	0	1
3. ボールを使った体育の授業は楽しいですか。	21	6	0	0
4. 体育の授業で、友だちと一緒に体操をしたり、運動をしたりすることは好きですか。	25	1	0	1
5. ボールを使った運動で、チームで活動することは好きですか。	22	3	2	0
6. 体育の授業でコツや作戦を話し合うことは好きですか。	22	4	1	0
7. 授業や習い事以外で、ボールを使った運動をしますか。	17	8	2	0
	15	8	3	1
	19	5	1	2
	18	6	1	2
	12	2	10	3
	14	9	6	2
	15	6	2	4
	12	5	4	6

## 成果と課題

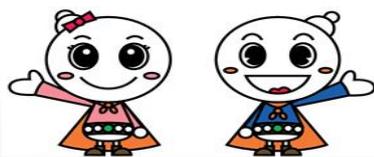
- 技能を精選したことで、児童の実態に合った楽しみ方ができた。
- ルールを工夫することで声を出し、楽しむ雰囲気が出た。
- 全員が生き生きと動けるルールの工夫が必要と感じた。

## 研究 3年目

- 1・2年目の成果と課題から
  - ・ かかわるための手立て
  - ・ 運動量の確保・技能の習得
  - ・ 話し合いの工夫（教具・環境の工夫・話し合いの焦点化）
  - ・ ルールづくり（場づくり・みんなが楽しめるルール）



『もりりん』  
練馬区 イメージキャラクター



『しらたまちゃん・しらたまん』  
国富町 イメージキャラクター

ご清聴、ありがとうございました。

アンケートの結果から、今年度の研究の手立てが、「コツや作戦を話し合う」上で有効であったことが分かりました。話し合うことが有効であることは、友達と遊ぶとき、仲よく遊ぶためのルールを一緒に考えることができ、結果として進んで外遊びを行い、体力の向上に繋がっていくと考えます。

成果としては、技能の精選やルールの工夫で児童が楽しんで活動することができました。課題としては、ゲームや審判で子どもたちがもっと生き生きと動ける工夫があると、より研究のねらいに近づけると思いました。

今年は研究の3年目ということで、最後の年になります。これまでの取り組みにより、休み時間に進んで運動する児童の姿が増えつつあります。体力テストの結果としてはまだ成果は出ていませんが、今後の結果に期待します。これからも研究を続け、東諸県郡の子どもたちの体力の底上げをしていきたいと思えます。

ご静聴、ありがとうございました。